

新聞名 / 掲載日

南日本新聞 / 2019年8月20日(火)

13面 地域総合 みなみネット@鹿児島都市圏

キャプション：書の仕事喜び 代筆30年超、日々精進

掲載：鹿児島市SC

新聞掲載記念

令和元年(2019年)8月20日(火)13面

市シルバー人材センター 最高齢91歳富山さん (永吉3丁目)

書の仕事喜び

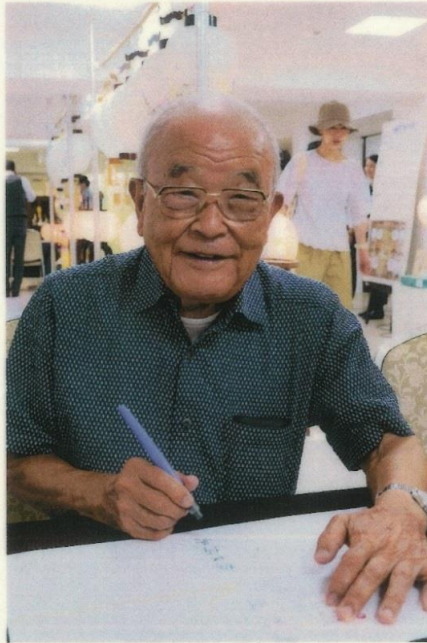
代筆30年超、日々精進

鹿児島市シルバー人材センターの最高齢、富山健さん(91)永吉3丁目には、毛筆で宛名や文章を代筆する筆耕の仕事が現役で続いている。定年退職後、趣味を生かそうとセンターに登録して30年超。「喜んでもらえるのが励み。元気なうちは続ける」と笑顔を見せる。

与論生まれの奄美育ちになり、通信講座など。電電公社(現NTT)に入り、1987(昭和62)年3月に退職した。書に関心を持ったのは子どもの頃。亡くなった父が残した遺言書の文字を見て、「負けないくらいに達筆になりたい」と思った。会社勤めをするよ

書成などを担当した。最も多いのは賞状の仕事。最近の名前よりも文面を書くことが増えたという。「紙全体のバランスを見ながらの字配りや文の割り付けは難しい。でも好きだから苦にならない」

この夏は同市の山形



のし紙に名前を書く富山健さん。健康の秘けつは「趣味の書で仕事ができること」
—鹿児島市金生町の山形屋

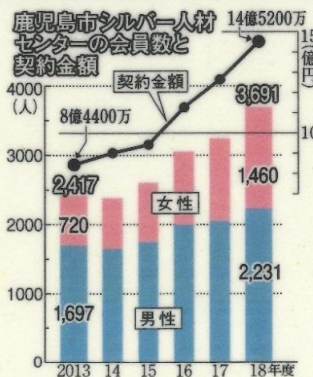
「作品が評価されると励みになるし、他の人の作品から面白い刺激をもらう」と富山さん。「この年でも仕事があることがありがたい。体が続く限り、書で貢献していきたい」と話す。(入角里絵子)

会員増加数全国一 契約金額最高14億円

鹿児島市シルバー人材センターの会員数は2018年度、過去最高の3691人になった。前年より450人増えて、増加数は全国一。人手不足を背景にした企業からの需要が増え、積極的な会員獲得策が奏功した。受けた業務の契約金額も14億5200万円で最高を更新した。

年間入会者は千人を超え、女性が初めて男性を上回った。女性は1460人で、4年間で倍増した。「シルバー」と呼ばれたくない「あなた」を待っています」などキャッチコピーを工夫をしたり、PRを兼ねた美容講座を開いたりしてイメージアップを図った。

センターの業務は屋外清掃や軽作業などの受託、人材派遣の2事業ある。18年度の受注件数は計2万8287件。契約金額は前年比1億8700万円増だった。この数年、派遣の



伸びが著しい。人手不足の小売や調理補助、製造分野でニーズが高まった。(入角里絵子)